

# ひろばドリーム

発行番号 NO. 318号  
発行日 2020年2月28日  
編集発行 県ドリームマイツ自治会広報部  
連絡先 TEL851-2596  
E-mail : kdreamj-1@woody.ocn.ne.jp

特別号

## 防災に関わるアンケート調査 結果報告

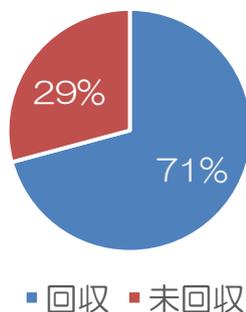
自分の命と生活 守のは自分です 食料備蓄は7日間を目指せ！！

昨年10月に実施しました、防災アンケートの結果を報告します。

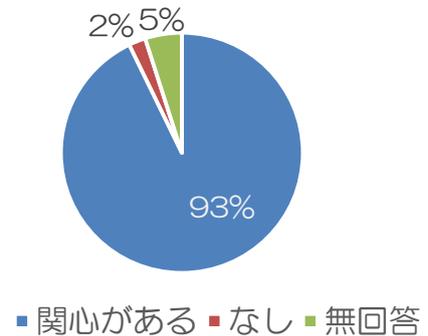
このアンケート回収率は71%と予想以上に高く、大いに喜ばしいことでした。これには昨年多発した台風などの自然災害情報が大きく作用したのではないかと思います。ご協力を頂きました自治会員さんに感謝します。

さて、以下はアンケート集計の結果ですが、アンケート冒頭の『防災に関心がありますか』との問いには、93%が「ある」、しかし「無い」と「無回答」を合わせると7%になります。回収されない分を考慮すると20%位になるのではと考えられます。やはり、ここだけは全会員さんに関心を持って頂けるようにしたいものです。

防災アンケートの回収率

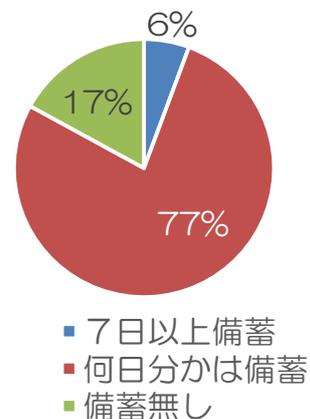


防災への関心



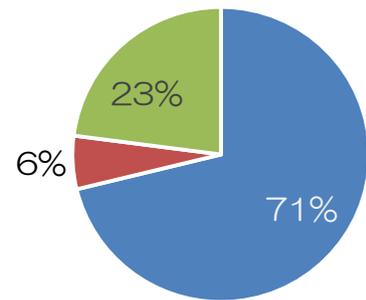
### Q1 食料、水、トイレパックなど備品について

8割以上の方が何らかの形で備蓄されていますが、7日以上となるとあまりおられません。この地域は「陸の孤島」になりやすいことを考えると、7日分の備えを心がけましょう。



## Q2 消火器はすぐに使える状態であるか

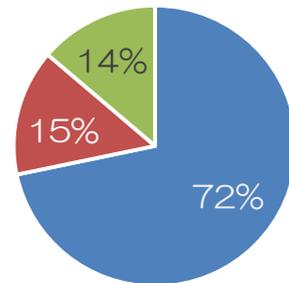
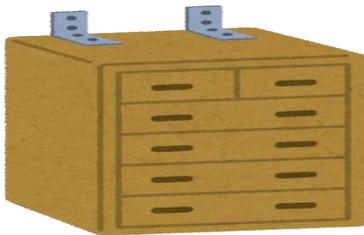
7割の方がすぐに消火器を利用できると回答されていますが、ほぼ3割の方は、残念ながらそうではありません。昨年2月に起きた7号棟の火事を考えると、すべてのお宅で消火器を利用出来るようにしたいものです。



- すぐに使用可能
- どこかにある
- なし（無回答含む）

## Q3 家具の転倒防止、落下防止の有無

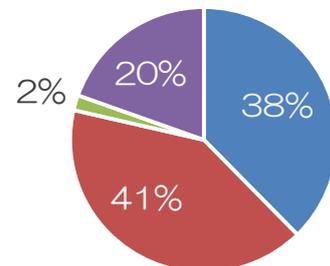
ほぼ7割の方が何らかの転倒防止対策をとっておられます。対策をしても意味がないという回答もありましたが、家具のない部屋を用意しても、そこにたどり着く前に、倒れた家具の下敷きになる可能性があります。



- している
- 今後したい
- していない

## Q4 災害時に困難者への支援や手助けに協賛する

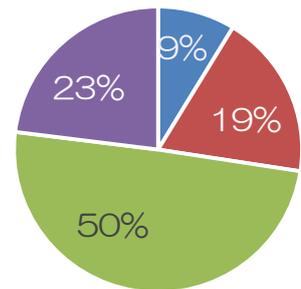
県ドリームハイツは高齢者が多い(65歳以上が53%)団地ですが、実に4割近い方が、災害時には助ける側に回りたいという回答を得ました。実に心強い限りです。



- したい
- 高齢で無理
- 小さい子供のため無理
- わからない

### Q5 支援協力の方の名簿作成と、氏名記載について

災害時支援はその積極性の度合いに差がありました。しかし、積極的なものも含めると、実に8割近くの方が支援してもよいという回答でした。名前を名簿に載せて積極的に支援したいという方は、9%もおられます。



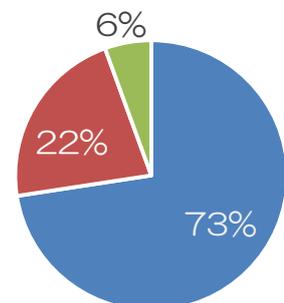
- 名簿掲載可
- 支援可、名簿不可
- 緩やかな支援希望
- わからない

### Q6、Q7 は氏名と資格の記載の項目のため、ここでは割愛します。

\*84 世帯、108 名の方がご氏名と取得された資格を書いておられます。実に心強い限りですが、個人情報なので取扱には十分注意して利用方法を検討しています。

### Q8 「本人情報シート」が各戸に配布された事の承知

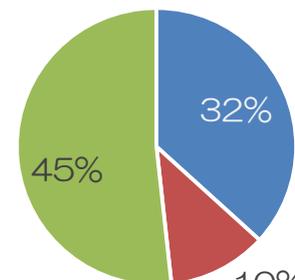
「本人情報シート」は特に災害時だけではなく、日頃の急病や事故などで倒れた時に、救急隊員に速やかに情報を伝えるためのものです。出来るだけ多くの方に利用していただきたいです。また、探そうとする救急隊員からすれば、保管場所は決めておく必要があります。



- 知っている
- 知らない
- 無回答

### Q9 「本人情報シート」の利用状況

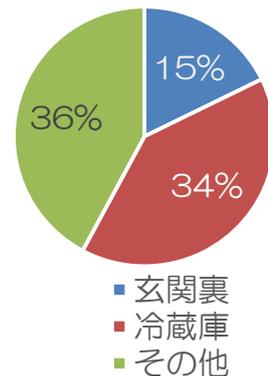
「本人情報シート」を利用されている方はあまり多くありませんでした。今後、広報活動を進め、情報更新のための再配布を検討します。



- 利用している
- 他を利用
- していない

## Q10「本人情報シート」の保管場所

「本人情報シート」の保管場所は、玄関扉の内側、又は冷蔵庫外側と決められています。靴箱やリビング机などではなく、決められた場所に保管して下さい。



昨年の9月に関東地方(特に千葉県)を直撃した台風15号、10月には中部、北関東、東北各地の河川氾濫等で甚大な災害をもたらした台風19号。当ハイツでも台風15号では、多くの棟の生け垣が倒れたり、ツバキ・ウメなどの中高木が根こそぎ倒れ、生け垣の修復や倒木の処分は、10月下旬まで後始末がかりました。

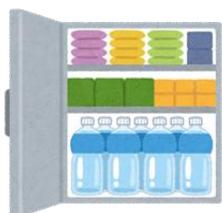
台風19号では、夜9時ごろから翌日午後1時30分ごろまで16時間ほどの停電が大きなアクシデントでしたが、その時災害に対する意識や自分にとって何を備えるべきかを考える機会になったのではないのでしょうか?基本的に県ハイツの避難所は自宅です。まずは「我が身を守るのは自分である」(自助)という事を自覚してください。

食料確保や飲料水、卓上コンロなど日常生活に必要な物資の備蓄は、3日ではなく7日を目安にする事が望ましい、と言われていています。個人的に備えなければならない、例えば「薬」は各人各様で、自分でその安全を確保する方法も考えておきましょう。

ハイツのように自宅避難が第一義とされる地域は、住民同士の協力(共助)が必要不可欠です。役所など公共からの支援物資(公助)は、情報伝達や道路事情などで簡単には動かないようです。

防災・減災を達成するには、まず住民同士が助け合うことが、一番良い方法だと言われていています。住民が助け合える環境作りを目指しませんか!!

県ドリームハイツ自治会長 塚本英史  
防災担当副会長 高橋澄子



＝編集後記＝

昨年10月に行われた「防災に関わるアンケート」の結果を会員の皆様にお知らせすべく特別号を発行しました。グラフにより防災に関わる皆様の関心の高さが現れています。今後とも皆様のご支援ご協力をお願い致します。

〈広報部〉